



千葉県船橋市 旭 博道 さん

**Q** 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

**A** 1959年8月生まれの64歳。岡山県西大寺で生まれ、父の転勤で神奈川県小田原で青春時代を過ごしました。会社勤めで千葉に配属され、市川市から現在住んでいる船橋市に引っ越してから30年目となります。

**Q** ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

**A** ビジネスの世界を卒業した後、「さてこれから何をするか」と考え始めた時、グレタ・トゥーンベリさんのドキュメンタリー番組を見て感動。我々先輩たちが、これからの世代や地球に迷惑をかけてはいけないと、ぼんやりと「環境保全」に興味を持ちました。そこで、特に気候変動・エネルギー問題・廃棄物問題・環境行政・環境経済学などに関する学術書等を読みました。

また2年前に、船橋市が主催した「エコカレッジ」という45名程の市民を集めた半年間の講座に参加し、地域に焦点を当てた知識・情報と自然に触れて、仲間と意見交換をしました。

その頃、体力維持のために東京湾北端の干潟、三番瀬まで自宅から片道4.6km、往復2時間強を歩き始めました。しかし、市道両側の歩道・中央分離帯に車から投げ捨てられた弁当容器・缶・ペットボトルが散乱してい



てどうしても目について放置はできなくなり、一人でできるごみ拾いを週末にやろうと決めました。毎春、海浜公園には潮干狩りに大勢の人が来場します。その人たちをごみでがっかりさせたくないとも感じたからです。

**Q** ごみかんに入会して下さったきっかけは？

**A** 船橋市には廃棄物削減に関するNPO法人等がないので、勉強させていただいた『ごみ減量政策』等の著者の山谷先生に、失礼にもメールを差し上げ、今後の活動のアドバイスをいただきたいとお願いし、ご紹介いただいたのがごみ・環境ビジョン21です。山谷先生の著書の中でも多摩地域の先進的な取組みがいろいろ紹介されていたので、昨年9月に入会させていただきました。

**Q** ごみ問題に関わること以外で趣味や生きがいは？

**A** 本をよく読みます。現役時代は経済関係からハウツウものを読んで改善に取り組みました。

小説では、「泣ける」という書評を信じて読み始めます。最近は医者でありながら執筆されている、例えば帯木蓬生氏、夏川草介氏の小説をよく読んでいます。自分の入院経験も思い出しながらのめり込んでしまいます。

ノンフィクションでは熱い思いを持って現実を伝えようとする著者（例

えば佐々涼子氏）の作品などで、知らない世界を垣間見せてもらえます。

**Q** 特筆すべき近況があれば教えてください。

**A** 特筆する近況はないので、現在の環境保全に関する個人的な意見を記します。

2050年までの通過ポイントである2030年までの活動が大変重要で、気温上昇1.5℃に抑えるという目標は既に超えているのでは？という結果が表明されそうです。化石燃料の使用を減らすことを今まで以上にスピードを上げて取り組まなければなりません。身近な問題であるプラスチック容器包装ごみの1人当たりの排出量は、日本は世界2位です。

日本人の国民性は、新しいことに取り組む姿勢として、慎重に慎重に検討してからでなければすぐには具体的には進めない。すぐ進めるヨーロッパの結果を見てからようやく始めるということが多く、約5年遅れでスタートします。これはヨーロッパ資本の会社にいたので、いやというほど感じてきました。このことがすべて悪いわけではありませんが、目標時期が決まっており、気候転換点（ティッピングポイント）が迫っているといわれる今は逆算して対策を実行する必要があります。

個人として取り組むごみの3Rはもちろん強化し、一方で社会全体では規制もしなければ、具体的な目標を予定通り達成することは難しいです。

例えば、①世界で産業界への炭素税の導入 ②拡大生産者責任をプラスチック容器包装にも適用する。その回収、リサイクルをスーパーやコンビニにも義務化する（野菜・果物は包装しない、計り売りの拡大も）③喫煙は灰皿があるところだけで可能とする（タバコのポイ捨てを0にする）。

